

# 第15期定時株主総会の招集に際しての 電子提供措置事項

- 連結計算書類  
「連結株主資本等変動計算書」  
「連結注記表」
- 計算書類  
「株主資本等変動計算書」  
「個別注記表」

第15期

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

株式会社ゲームカードホールディングス

上記事項につきましては、法令及び当社定款第18条の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面（電子提供措置事項記載書面）への記載を省略しております。

# 連結株主資本等変動計算書 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の 包括利益 累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その 他有価証券 評価差額金	
当 期 首 残 高	5,956	5,518	48,449	△1,347	58,577	23	58,600
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当			△1,402		△1,402		△1,402
自 己 株 式 の 取 得				△0	△0		△0
自 己 株 式 の 処 分		1		7	9		9
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			3,262		3,262		3,262
株主資本以外の項目の当 期 変 動 額 ( 純 額 )						△93	△93
当 期 変 動 額 合 計	-	1	1,859	7	1,868	△93	1,775
当 期 末 残 高	5,956	5,520	50,309	△1,339	60,446	△70	60,376

## 連結注記表

### I. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### 1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数           1社  
連結子会社の名称       日本ゲームカード株式会社

- (2) 非連結子会社の状況  
該当事項はありません。

#### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

#### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ① 有価証券

###### a 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

###### b その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法を採用しております。

###### ② 棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

商品   ：移動平均法を採用しております。

製品   ：同上

原材料：同上

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。但し、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～39年

機械装置 3年～10年

工具、器具及び備品 2年～20年

### ② 無形固定資産（リース資産を除く）定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3年～10年）に基づく定額法によっております。

### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法によっております。

### ④ 長期前払費用

均等償却によっております。

なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

### ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については合理的に見積った貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

### ② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

### ③ 株主優待引当金

将来の株主優待制度に伴う費用負担に備えるため、当連結会計年度末において翌連結会計年度に発生すると見込まれる額を計上しております。

### ④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

## (4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

## (5) 収益及び費用の計上基準

当社は、パチンコプリペイドカードシステム関連事業を行っており、主な収益の認識基準は次のとおりです。

### ① 機器関連

カードユニット等の機器の販売については、商品の引渡時点において顧客等が当該商品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、商品の引渡時点で収益を認識しております。

機器の販売に伴い、キャッシュバック等の顧客等に支払われる対価がありますが、顧客等から受領する別個の財又はサービスと交換に支払われるものである場合を除き、取引価格から減額しております。

機器関連に関する取引の対価は、商品の引渡後、概ね2か月以内に受領しております。

### ② カード関連

製品カード等の販売については、製品の引渡時点において顧客等が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、製品の引渡時点で収益を認識しております。

遊技ファンが券売入金機又は入金機能付カードユニットでカードに入金し消費した金額に応じて、顧客から定率の情報管理料を徴収しており、毎月末締めで収益を認識しております。

遊技ファンが入金した時に負債を認識し、遊技ファンが使用しなかった（権利を行使しなかった）「非行使部分」については、会社が将来において権利を得ると見込み、当該非行使部分の金額について、遊技ファンによる権利行使のパターンと比例的に収益を認識しております。

カード関連に関する取引の対価は、概ね1か月以内に受領しております。

### ③ システム使用料関連

基幹的なインフラであるプリペイドカードシステムを運用するための費用として顧客から定額のシステム使用料を徴収しており、期間の経過によって履行義務を充足した時に収益を認識しております。

システム使用料関連に関する取引の対価は、概ね1か月以内に受領しております。

### ④ ファイナンス・リース取引

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

## II. 重要な会計上の見積り

繰延税金資産の回収可能性

### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産 354百万円

### (2) 重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、将来の収支見込により見積られた将来の課税所得に基づき繰延税金資産の回収可能性を判断しております。

将来の収支見込における主要な仮定は、連結子会社である日本ゲームカード株式会社における加盟店舗数、カードユニット販売台数、カードユニット販売単価の予測になり、これらは市場規模が縮小傾向にある遊技業界の今後の状況などに依拠しており不確実性を伴っております。

課税所得が生じる時期及び金額は、将来の不確実な経済状況の変動によって影響を受ける可能性があり、実際に生じた時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度において繰延税金資産を認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

### Ⅲ. 連結貸借対照表に関する注記

#### 1. 担保に供している資産

次の資産を前払式支払手段の発行保証金、及び資金移動業の履行保証金として、担保に供しております。

投資有価証券（国債） 5,186百万円

#### 2. 有形固定資産の減価償却累計額 2,642百万円

減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

### Ⅳ. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### 1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 14,681,400株

#### 2. 配当に関する事項

##### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2025年5月9日 取締役会	普通株式	利益剰余金	701	50.0	2025年3月31日	2025年6月20日
2025年11月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	701	50.0	2025年9月30日	2025年12月1日

##### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの 2026年5月14日開催の取締役会決議による配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2026年5月14日 取締役会	普通株式	利益剰余金	701	50.0	2026年3月31日	2026年6月24日

## V. 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取り組み方針

当社グループは、パチンコホール向けプリペイドカードシステム販売事業を行うための資材調達・設備投資計画に照らして、必要な資金及び短期的な運転資金は自己資金により賄っております。

資金運用については安全性の高い金融資産で運用する方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びリスク

営業債権である受取手形、売掛金、電子記録債権、営業未収入金、リース投資資産は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に一時的な余資の運用を目的とした満期保有目的の債券とその他有価証券及び資本上・業務上の関係を有する企業の株式等であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に営業用設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は連結決算日後、最長で5年後であります。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、営業債権について、営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

満期保有目的の債券は、格付の高い債券を主な対象としているため信用リスクは僅少であります。

##### ② 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、有価証券及び投資有価証券について、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

##### ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各社の経理部門が収支月報を作成・更新すること等により、流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) リース投資資産	120	120	△0
(2) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	22,172	21,325	△846
その他有価証券	17,667	17,667	－
資産計	39,960	39,113	△847
(1) リース債務	371	370	△1
負債計	371	370	△1

(※1) 「現金及び預金」、「売掛金」については、現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(※2) 市場価格のない株式等は、「(2) 有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (2026年3月31日)
非上場株式	98

(注1) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	11,327	－	－	－
売掛金	2,304	－	－	－
リース投資資産	52	68	－	－
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債	－	－	－	5,000
社債	－	2,000	－	－
その他	15,000	－	－	－
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券(社債)	－	－	4,000	－
合 計	28,685	2,068	4,000	5,000

(注2) リース債務の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
リース債務	142	229	－	－
合 計	142	229	－	－

3. 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額としている金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区 分	時 価			合 計
	レベル1	レベル2	レベル3	
株式	1,203	－	－	1,203
社債	－	4,447	－	4,447
その他	－	12,016	－	12,016
資産計	1,203	16,463	－	17,667

## (2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区 分	時 価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
リース投資資産	－	120	－	120
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	4,418	－	－	4,418
社債	－	1,910	－	1,910
その他	－	14,997	－	14,997
資産計	4,418	17,028	－	21,446
リース債務	－	370	－	370
負債計	－	370	－	370

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

## 有価証券及び投資有価証券

上場株式、国債、社債、その他債券は相場価格を用いて評価しております。上場株式、国債は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している社債、その他債券は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

## リース投資資産

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## リース債務

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## VI. 収益認識に関する注記

### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	売 上 高
機器	18,686
カード	2,388
システム使用料	3,903
その他	398
顧客との契約から生じる収益	25,377
その他の収益	7
外部顧客への売上高	25,385

### 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「I. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記 4. 会計方針に関する事項 (5) 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

### 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

#### ① 契約負債の残高

期首残高：115万円

期末残高：91百万円

契約負債は主に、サービス提供前に顧客から受け取った対価であり、連結貸借対照表上、流動負債のその他に含まれております。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

#### ② 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、予想契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

**Ⅶ. 1株当たり情報に関する注記**

1株当たり純資産額	4,304円35銭
1株当たり当期純利益	232円59銭

**Ⅷ. その他の注記**

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**Ⅸ. 重要な後発事象に関する注記**

該当事項はありません。

# 株主資本等変動計算書 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本							評価・換算差額等		純 資 産 計 合
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本計 合	その他有価証券 評価差額	評価・換算 差額	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他有価証券 剰余金 繰越利益剰余金					
当 期 首 残 高	5,956	2,456	29,604	32,060	2,869	△1,347	39,539	23	23	39,563
当 期 変 動 額										
剰 余 金 の 配 当					△1,402		△1,402			△1,402
当 期 純 利 益					1,359		1,359			1,359
自 己 株 式 の 取 得						△0	△0			△0
自 己 株 式 の 処 分			1	1		7	9			9
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								△93	△93	△93
当 期 変 動 額 合 計	-	-	1	1	△43	7	△34	△93	△93	△127
当 期 末 残 高	5,956	2,456	29,605	32,062	2,826	△1,339	39,505	△70	△70	39,435

## 個別注記表

### I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### 有価証券の評価基準及び評価方法

- ・満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）
- ・関係会社株式 移動平均法による原価法
- ・その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの  
時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）  
市場価格のない株式等  
主として移動平均法による原価法

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～18年

工具、器具及び備品 3年～15年

##### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3年～10年）に基づく定額法によっております。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

##### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

##### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

##### (4) 株主優待引当金

将来の株主優待制度に伴う費用負担に備えるため、当事業年度末において翌事業年度に発生すると見込まれる額を計上しております。

#### 4. 収益及び費用の計上基準

当社の収益は、子会社からの経営指導料及び受取配当金となります。経営指導料においては、子会社への契約内容に応じた受託業務を提供することが履行義務であり、業務が実際された時点で当社の履行義務が充足されることから、当該時点で収益及び費用を認識しております。受取配当金については、配当金の効力発生日をもって認識しております。

## II. 重要な会計上の見積り

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

繰延税金負債 196百万円

(相殺前の繰延税金資産の金額は11百万円であります)

(2) 重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、将来の収支見込により見積られた将来の課税所得に基づく繰延税金資産の回収可能性を判断しております。将来の収支見込における主要な仮定は、連結子会社である日本ゲームカード株式会社における加盟店舗数、カードユニット販売台数、カードユニット販売単価の予測になり、これらは市場規模が縮小傾向にある遊技業界の今後の状況などに依拠しており不確実性を伴っております。

課税所得が生じる時期及び金額は、将来の不確実な経済状況の変動によって影響を受ける可能性があり、実際に生じた時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度において繰延税金資産を認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

## III. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

13百万円

## IV. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引

196百万円

## V. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	658,403株	20株	3,800株	654,623株

(注) 1.自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取20株による増加であります。

2.自己株式の数の減少は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分3,800株による減少であります。

## VI. 関連当事者との取引に関する注記

会社等

種 類	会 社 等 の 名 称	議 決 権 等 の 所 有 (被所有) 割合	関 連 当 事 者 と の 関 係	取 引 の 内 容	取 引 金 額 (百万円)	期 末 残 高 (百万円)
子 会 社	日本ゲームカード(株)	所有 直接 100%	経営管理 役員の兼任 (3人)	経営指導料の受取	196	—

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

経営指導料については両社協議により決定しております。

## VII. 税効果会計に関する注記

### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

退職給付引当金	1百万円
繰越欠損金	21百万円
役員退職慰労引当金	8百万円
その他有価証券評価差額金	164百万円
関係会社株式評価損	602百万円
関係会社株式の現物配当による差額	7,619百万円
投資有価証券評価損	138百万円
その他	6百万円
繰延税金資産小計	8,563百万円
評価性引当額	△8,552百万円
繰延税金資産合計	11百万円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	207百万円
繰延税金負債合計	207百万円
繰延税金資産 (△は負債) の純額	△196百万円

### 2. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

**Ⅷ. 1株当たり情報に関する注記**

1株当たり純資産額	2,811円43銭
1株当たり当期純利益	96円90銭

**Ⅸ. その他の注記**

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**X. 重要な後発事象に関する注記**

該当事項はありません。